

## 設計コンセプトと課題に対する考え方

新庁舎を計画するにあたって、ふれあいセンターと周辺の市有地を合わせて市民の居場所を創ることが最も大切であると考えます。旧山野線に沿った細長い市有地は現在多くの部分が駐車場として利用されていますが、これらを公園として整備し、駐車場を再配置することで、オープンスペースが連続する場を創ることができます。また、新庁舎とふれあいセンターを一体のものとして整備し、行政サービスと生き生きとした市民の活動が共存する空間の姿を目指します。個別の課題については提案書の中で丁寧に説明いたします。

## 取組体制とチームの特徴

庁舎建築など公共施設の経験が豊富な設計事務所と、地域性や風土に対する知見が豊富な設計JVを中心に、様々な専門家が協働するワーキンググループを組みます。ハードからソフトまで包括的に対応できるチームを構成し、庁舎づくりを支援します。



## デザインオンレスポンス 対話を重視した設計手法

「綿密な対話」を通して、庁舎を通じたまちづくりに関わる人々の思いを空間に反映させることが私たちの役割だと考えています。みんなのイメージを具現化しながら共有し、対話を重ねていくことで様々な思いを設計に反映していきます。



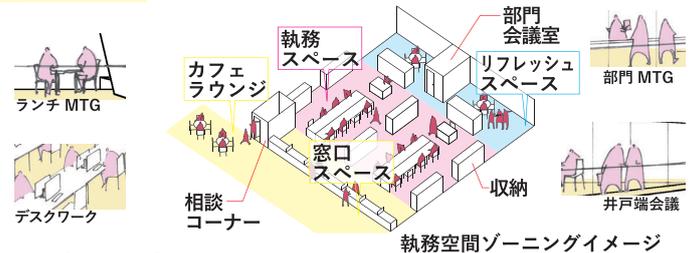
## 特に配慮する事項

**防災**：近年の大地震や水害を経験する中で、災害時における庁舎の役割が再認識されています。災害に強い建築とすることは当然として、防災拠点として十分に機能するよう配慮した計画とします。

**環境**：可能な限り自然エネルギーを活用し、エネルギー消費の少ない建築の姿を目指します。その為には自然換気や日射制御による冷暖房期間を短縮や、採光に留意し照明用電力消費を抑制を行うなど基本的な建築の性能が重要であると考えます。

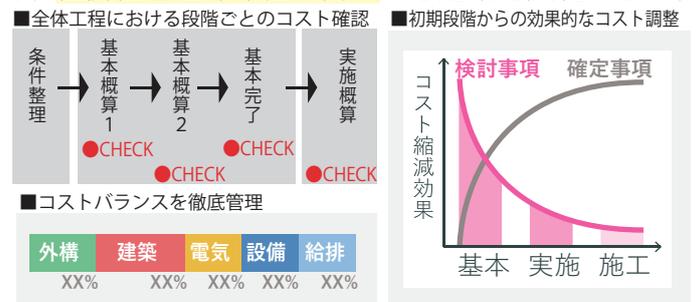
## 働きやすさに配慮した執務空間づくり

執務空間は将来の組織改編等にも柔軟に対応できるフレキシビリティが重要であると考えます。また、執務空間の中にはミーティングや休憩など多目的に使えるリフレッシュスペースなどを計画し、職員の働きやすさにも配慮した設計を行います。



## コストコントロールの徹底

設計の進行に合わせ段階的に概算費用を算出し、常にコストを意識した設計を行います。BIM を採り入れ、常に工事費を管理し調整します。躯体や外装材、各仕様などの建設コストの大きな部分を占める要素は、設計初期の段階で十分に検討を行い効果的なコスト削減を提案します。イニシャルコストに加え、ライフサイクルコストを踏まえた長期的な視点で、経済性と超寿命化が両立する建築を実現します。



## 共に創る設計フローと円滑な業務工程計画

工程管理を徹底し、円滑に業務を遂行します。初期段階でヒアリングや条件整理を丁寧にを行い、目標を共有しながら設計を進めます。また、ワークショップなどを通じて市民の意見や要望を把握し、設計へのフィードバックを繰り返します。模型やCGなどのわかり易い資料を用いながら、定期的に設計レビューを行い、課題を整理し、解決しながら進めていきます。対話を丁寧に積み重ね、みんなの拠点づくりを具現化します。

